



なぜ王子は洋紙発祥の地になったの？

明治時代のはじめに、機械で紙を作る工場が日本にできました。その中でも、一番大きい工場を早く作ったのが、抄紙会社でした。そこで、昭和 28 年 (1953) に記念碑をたてて、洋紙発祥の地とよぶようになりました。



なぜ紙の工場が王子に作られたの？

紙づくりには、たくさんのきれいな水が必要です。抄紙会社は、千川用水の水を工場に引いて紙を作りました。そして、紙や原料を舟で運ぶために、石神井川を使いました。

抄紙会社のとなりに、政府がお札の紙を作るための工場（今の国立印刷局）を作ったことからも、王子の地が、紙の工場にちょうどよい場所だったことが分かります。

王子は、この 2 つの工場を中心に、東京の一大工業地帯になっていきました。



抄紙会社
ができてから
150年

抄紙会社ってなあに

東京・王子に生まれた紙の工場をしらべよう



今から約 150 年前の明治時代に、東京・王子に紙の工場を作ったのが、抄紙会社です。

(明治 6 年 (1873) 会社設立、同 8 年 工場開業)

日本でも、ヨーロッパやアメリカの国々のように、たくさんの本や新聞を出せるようにしようと、機械で大量の洋紙を作る工場を建てたのです。



↑錦絵「古今東京名所 飛鳥山公園地王子製紙会社」部分 (明治 16 年)
↓渋沢栄一 (明治 5 ~ 6 年頃) 渋沢史料館所蔵



抄紙会社を作ることを初めに考え、会社のリーダーとなったのは、渋沢栄一でした。

抄紙会社は、渋沢栄一が実業家として最初のところに関わった会社で、力を入れて取り組んだ仕事のひとつでした。



公益財団法人 紙の博物館

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 (飛鳥山公園内)
TEL (03) 3916-2320 FAX (03) 5907-7511
<https://papermuseum.jp/>

20220910000



抄紙会社があった場所を歩いてみよう

抄紙会社は、のちに王子製紙株式会社王子工場となり、紙を作りつづけていました。しかし、昭和20年(1945)に戦争で空襲を受け、建物や機械がほとんど壊れてしまったため、廃止されました。

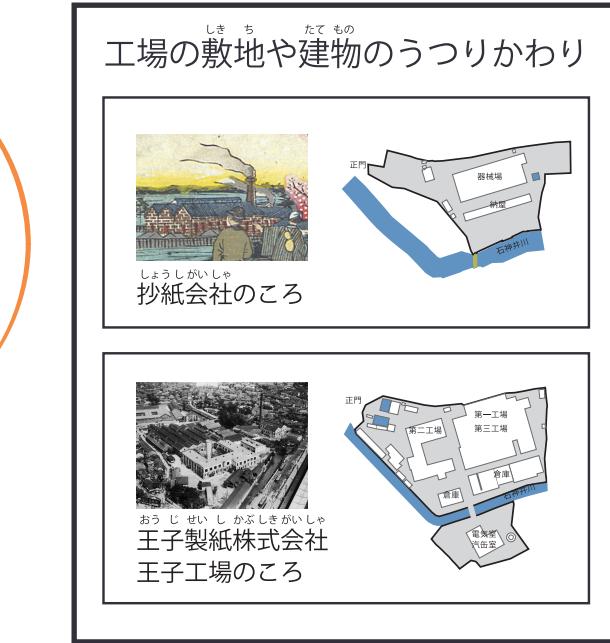
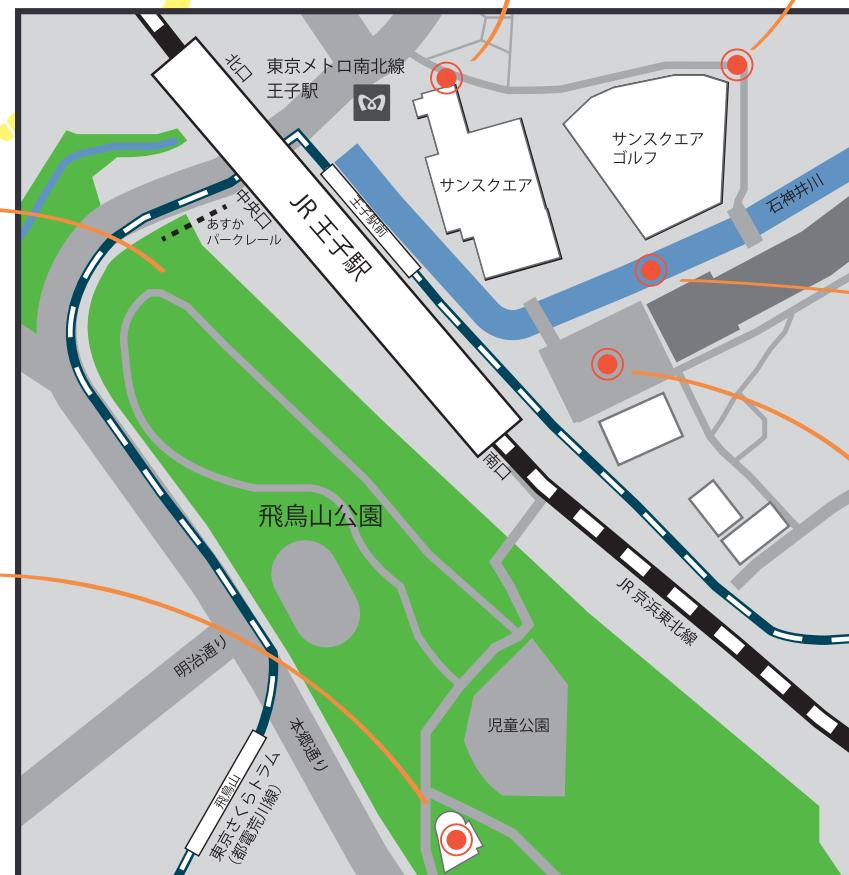
工場があった場所には、今は、総合レジャー施設(サンスクエア、サンスクエアゴルフ)があります。



飛鳥山公園
飛鳥山は、桜の名所です。明治時代には、山から工場が見えたので、多くの人がお花見と工場の風景を楽しみました。



紙の博物館
抄紙会社の古い書類や手紙などを、今でも大切に保存しています。



どこに工場があったのかな?
今の地図とくらべてみよう!



石神井川
抄紙会社があったころは、石神井川を使って、荷物を舟で運んでいました。



石神井川の南側には、工場ではたらく人たちの家や、工場の電気を作る建物がありました。

本パンフレットの地図・工場配置図は、以下を参考にして、紙の博物館が作成した。

抄紙会社の配置図は、「内務省引継地図 0026 東京府下第九大大区六小区 武州豊嶋郡王子村四拾七番地 抄紙会社(内題)」(東京大学史料編纂所蔵)を改変した。

王子製紙(株)王子工場の配置図は、「王子製紙(株)王子工場平面図」昭和9年(1934)を参考に作成した。

現在の地図は、国土地理院地図ウェブサイトの地図を加工して作成した。